

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成30年1月18日(2018.1.18)

【公表番号】特表2017-502091(P2017-502091A)

【公表日】平成29年1月19日(2017.1.19)

【年通号数】公開・登録公報2017-003

【出願番号】特願2016-563904(P2016-563904)

【国際特許分類】

|         |         |           |
|---------|---------|-----------|
| A 6 1 K | 31/55   | (2006.01) |
| A 6 1 K | 45/06   | (2006.01) |
| A 6 1 K | 31/4745 | (2006.01) |
| A 6 1 P | 35/00   | (2006.01) |
| A 6 1 P | 35/02   | (2006.01) |
| A 6 1 K | 47/50   | (2017.01) |
| A 6 1 P | 43/00   | (2006.01) |

【F I】

|         |         |       |
|---------|---------|-------|
| A 6 1 K | 31/55   |       |
| A 6 1 K | 45/06   |       |
| A 6 1 K | 31/4745 |       |
| A 6 1 P | 35/00   |       |
| A 6 1 P | 35/02   |       |
| A 6 1 K | 47/48   |       |
| A 6 1 P | 43/00   | 1 1 1 |

【手続補正書】

【提出日】平成29年11月29日(2017.11.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a) PARP阻害薬のPARP阻害量と；(b)長時間作用型トポイソメラーゼI阻害薬のトポイソメラーゼI阻害量とを含む組み合わせ物。

【請求項2】

前記患者が癌に罹患している、請求項1に記載の組み合わせ物。

【請求項3】

前記癌が固形癌である、請求項2に記載の組み合わせ物。

【請求項4】

前記固形癌が、乳癌、卵巣癌、結腸癌、結腸直腸癌、胃癌、悪性黒色腫、肝癌、小細胞肺癌、非小細胞肺癌、甲状腺癌、腎癌、胆管癌、脳癌、子宮頸癌、上頸洞癌、膀胱癌、食道癌、ホジキン病、副腎皮質癌及びユーリング肉腫からなる群から選択される、請求項3に記載の組み合わせ物。

【請求項5】

前記癌が卵巣癌である、請求項2に記載の組み合わせ物。

【請求項6】

前記卵巣癌が白金耐性卵巣癌である、請求項5に記載の組み合わせ物。

【請求項7】

前記癌が結腸直腸癌である、請求項2に記載の組み合わせ物。

【請求項8】

前記癌が乳癌である、請求項2に記載の組み合わせ物。

【請求項9】

前記癌が、リンパ腫癌、白血病癌、横紋筋肉腫及び神経芽細胞腫からなる群から選択される、請求項2に記載の組み合わせ物。

【請求項10】

前記患者がヒトである、請求項1に記載の組み合わせ物。

【請求項11】

(a)が、(b)の前に投与されることを特徴とする、請求項1に記載の組み合わせ物。

【請求項12】

(a)が、(b)の後に投与されることを特徴とする、請求項1に記載の組み合わせ物。

【請求項13】

(a)及び(b)が同時に投与されることを特徴とする、請求項1に記載の組み合わせ物。

【請求項14】

(a)及び(b)の各々が少なくとも2回投与され、その後、患者に、(b)のさらなる投与なしに(a)を投与する維持相が続くことを特徴とする、請求項1に記載の組み合わせ物。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明は、当該技術分野におけるこれら及び他の必要性に応えようとするものである。

特定の実施形態において、例えば以下の項目が提供される。

(項目1)

(a)PARP阻害薬のPARP阻害量を患者に投与するステップと；(b)長時間作用型トポイソメラーゼI阻害薬のトポイソメラーゼI阻害量を前記患者に投与するステップとを含む方法。

(項目2)

前記患者が癌に罹患している、項目1に記載の方法。

(項目3)

前記癌が固形癌である、項目2に記載の方法。

(項目4)

前記固形癌が、乳癌、卵巣癌、結腸癌、結腸直腸癌、胃癌、悪性黒色腫、肝癌、小細胞肺癌、非小細胞肺癌、甲状腺癌、腎癌、胆管癌、脳癌、子宮頸癌、上頸洞癌、膀胱癌、食道癌、ホジキン病、副腎皮質癌及びユーリング肉腫からなる群から選択される、項目3に記載の方法。

(項目5)

前記癌が卵巣癌である、項目2に記載の方法。

(項目6)

前記卵巣癌が白金耐性卵巣癌である、項目5に記載の方法。

(項目7)

前記癌が結腸直腸癌である、項目2に記載の方法。

(項目8)

乳癌である、項目2に記載の方法。

(項目9)

前記癌が、リンパ腫癌、白血病癌、横紋筋肉腫及び神経芽細胞腫からなる群から選択される、項目2に記載の方法。

(項目10)

前記患者がヒトである、項目1に記載の方法。

(項目11)

ステップ(a)が、ステップ(b)が行われる前に行われる、項目1に記載の方法。

(項目12)

(a)が、ステップ(b)が行われた後に行われる、項目1に記載の方法。

(項目13)

ステップ(a)及び(b)が同時に行われる、項目1に記載の方法。

(項目14)

ステップ(a)及び(b)の各々が少なくとも2回行われ、その後、患者に、前記長時間作用型トボイソメラーゼI阻害薬のさらなる投与なしにPARP阻害薬のPARP阻害量を投与する維持相が続く、項目1に記載の方法。